

保育計画青果報告書

法人名	社会福祉法人 くりの木会
施設名	幼保連携認定こども園 たっここども園
報告者（役職）	浪岡 幸子 （園長）
住所・連絡先	青森県三戸郡田子町大字田子字天神堂向 72
	☎ 0179-32-2229 takko@kurinokikai.or.jp

○タイトル（保育計画）

夏の遊びを全身で楽しみながら生活ルールを守り自立心を養う

○主な助成備品

大型プール

1. 保育計画策定の目的

プール遊びで育まれるものは、【身近な環境に主体的に関わる】【いろいろな活動を楽しむ】【自己を十分に発揮】【生活に必要な習慣や態度を身に付ける】【自立心】等多方面にわたり、子どもの成長に必要な活動であると思います。特に大型プールでは、お友だち同士の関わりがあり、お互いの気持ちを理解・共有する気持ちを育てるチャンスと考えています。

（0歳児～1歳児）

0歳児、1歳児の低年齢の赤ちゃんは、プールの水に興味を持ち、近づき、触れようとします。これだけでも十分ですが、保育者に抱っこされながら、また、保育者としっかり手をつないでスキンシップを取り安定感を感じながら、プールに入り水の感触を体で感じお日様の下で日光を浴びることができます。

（2歳児～3歳児）

水に入る・シャワーをする・着替えようとする等、様々な環境に関り、慣れない場所で行動できるようになります。

プールでの活動を楽しみにして、先生のお話をよく聞く、プールでのお約束を守ろうとする姿も大切な活動です。

また、大きな声を出したり、伸び伸びと体を動かし環境の違った場所で自己を十分に発揮できます。

(4歳児～5歳児)

プールでの新しい道具に興味を持ち集団でのゲーム等を行うことで、友だちとの関りを深めコミュニケーション力を高めます。その経験から、楽しい活動ばかりではなく、遊びのルールを守らなければ危険が身近にある事の注意点も重要な指導になると考えています。

以前は保育士に手伝ってもらっていた水着の着替え（水着のひもを結ぶ）、脱いだ服の整理整頓、自分の物を最後まで自分で頑張る姿を目指すものです。「自分の力でやろうとする気持ちを持ち」「やり遂げた満足感を味わい」これらが、プール遊びで「自立心」「健康な心と体」の育ちを支援するものであると考えて、夏の季節でしか経験できない水遊び、大型プールでの活動を充実させたいと考えています。

2. 具体的な実施内容

大型プールを園庭に設置するにあたり、室内で十分な安全点検を行い、組み立て方、危険な箇所は職員だけではなく、子どもにも説明をし、室内で水なしで安全確認を意識しながら入り方や、上がり方の体験を行いました。職員は、設置方法やプールまでの安全なルートを確認するようにロール版やすのこを的確に設置できるように訓練を行いました。

また、終了時に毎日の水替えについても、どのような水の排出時の流れが園庭や地域の水路に迷惑にならないで排水できるのか、地域の方を交えて検討を行い実施しました。



※職員から、危ない箇所について説明を受けている園児

3. その成果と評価

これらの目標を職員で共有して活動を行なった結果、プールは子どもたちにとって夏の一番の楽しみになりました。プールに入れることを楽しみに登園するようになり、低年齢の子どもは一人での着脱に意欲を持ち、高年齢の子どもたちは、水遊びには危険があることを意識しながら、ルールを守り遊びを楽しみ、自分の事だけではなく、周りの自分以外

の事にも気を配ろうとする態度が見られるようになりました。

このことは、プール遊びの時だけではなく園生活において大きな変化をもたらすこととなり、目標にも掲げたコミュニケーション力の向上につなげることができました。



4. 今後の課題と展望

これまでの成果をみると、クラスごとに使用時間が区切られているため、プールでの子どもの活動が妨げられることが無いような時間の配分等を考えていきたいと思えます。

プールのパーツごとの追加設置も可能であるとのことで、水遊びだけではなく、水量を年齢に応じて増やし、泳ぎの指導や、水泳教室等も行っていきたいと考えています。

また、地域の方々と排水について話し合えたことで、プールでの子どもたちの歓声に苦情が来ることもなく、地域の方々が見守ってくれていることに感謝し、今後は、地域の子育て支援にも使用したいと考えています。

最後に、大型プールを大切に使うために、使用時期以外の保管について、専用の倉庫を用意したいと考えております。

以上